

はじめに

ポジティブ・アクションについて、質問や相談をいただくことがあります。そのなかで一番多いのは、「具体的に何をどうすればいいのかが、わからない」ということです。

ポジティブ・アクションの実現には、3つの柱があります。第一に、経営トップが性別に関係なく一人ひとりが活かされる職場をつくと宣言し、社員に行動を働きかけること。トップが本気になってはじめて、ポジティブ・アクションは動き出すのです。

第二に求められるのは社員全員が一丸となって、個人が活かされていない現状とその原因を洗い出すことです。個人が飛躍するのを妨げている「ガラスの天井」を発見し解消するために、社内にプロジェクト・チームをつくって行動する。そんな会社も増えてきました。

第三の柱は、具体的でわかりやすい目標をつくって、実現に向けて行動することです。できれば数字になるようなハッキリした目標のほうがいい。目標は、会社にできることから考えればいいのです。

では、そんなポジティブ・アクションを、実際に会社はどうやって進めているのでしょうか。

その「具体的な」行動について、各都道府県の雇用均等室は、一社一社、うかがって歩きました。200社近い会社にご協力をいただきながら、ポジティブ・アクションについて、実際の取組をとりまとめたのが、この事例集です。

ポジティブ・アクションに関心はあるが、何から始めればいいのか、わからない。そんな方々に、ぜひとも読んでいただければと思います。その上で、性別を超えて、一人ひとりを個人として活かす職場づくりをするために、できることからはじめていただければと願っています。

ポジティブ・アクションを進めるための、具体的でわかりやすいヒントがみつかるとは思いますが、必ずしも見つかるはずではありません。

女性の活躍推進協議会ワーキンググループ座長
東京大学社会科学研究所助教授 玄田有史